

(様式第 10)

1 5 福井大第 1 5 3 8 号
平成 2 7 年 9 月 2 9 日

厚生労働大臣 殿

開設者名 福井大学長
真 弓 光 文 (印)

福井大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 2 6 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒910-8507 福井県福井市文京 3 丁目 9 - 1
氏 名	国立大学法人 福井大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

福井大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒910-1193 福井県吉田郡永平寺町松岡下合月 2 3 - 3	電話(0 7 7 6) 6 1 - 3 1 1 1
-----------------------------------	---------------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	(有) ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
1 神経内科 2 呼吸器科 3 消化器科 4 循環器科 5 6 7	
8 9 10 11 12 13 14	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無					
外科と組み合わせた診療科名						
1 呼吸器外科	2 心臓血管外科	3 形成外科	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
診療実績						

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科	②小児科	③整形外科	④脳神経外科	⑤皮膚科	⑥泌尿器科	⑦産婦人科
8産科	9婦人科	⑩眼科	⑪耳鼻咽喉科	⑫放射線科	13放射線診断科	
14放射線治療科	⑮麻酔科	⑯救急科				

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無					
歯科と組み合わせた診療科名						
1 歯科口腔外科	2	3	4	5	6	7
歯科の診療体制						

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 リハビリテーション科	2 病理診断科	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精 神	感染症	結 核	療 養	一 般	合 計
4 1 床	0 床	0 床	0 床	5 5 9 床	6 0 0 床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成27年10月 1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	254人	90人	322.7人	看 護 補 助 者	63人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	7人	2人	8.3人	理 学 療 法 士	13人	臨床検査技師	39人
薬 剤 師	41人	0人	41人	作 業 療 法 士	4人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視 能 訓 練 士	5人	そ の 他	0人
助 産 師	12人	1人	12.6人	義 肢 装 具 士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	686人	33人	706.8人	臨 床 工 学 技 士	10人	医療社会事業従事者	6人
准 看 護 師	0人	0人	0人	栄 養 士	1人	その他の技術員	8人
歯科衛生士	1人	1人	1.7人	歯 科 技 工 士	1人	事 務 職 員	171人
管理栄養士	7人	2人	8.5人	診療放射線技師	31人	その他の職員	49人

- (注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成27年10月 1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	10人	眼 科 専 門 医	6人
外 科 専 門 医	20人	耳鼻咽喉科専門医	12人
精 神 科 専 門 医	6人	放射線科専門医	15人
小 児 科 専 門 医	18人	脳神経外科専門医	9人
皮 膚 科 専 門 医	4人	整形外科専門医	6人
泌尿器科専門医	11人	麻 酔 科 専 門 医	6人
産婦人科専門医	11人	救 急 科 専 門 医	11人
		合 計	145人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1日当たり平均入院患者数	473.1人	6.2人	479.4人
1日当たり平均外来患者数	784.5人	27.6人	812.2人
1日当たり平均調剤数	入院： 635.1剤 外来： 49.5剤		
必要医師数	99人		
必要歯科医師数	3人		
必要薬剤師数	16人		
必要(准)看護師数	268人		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除し

た数を記入すること。

4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	m ² 183.52	鉄骨鉄筋 コンクリート	病床数	10 床	心電計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 313.43 m ² [移動式の場合] 台数 台		病床数	28 床		
医薬品 情報管理室	[専用室の場合] 床積 50.82 m ² [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	59m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 検体検査自動化総合システム			
細菌検査室	56m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 全自動細菌検査システム			
病理検査室	94m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 病理組織染色機, バーチャルスライド 遺伝子診断機器			
病理解剖室	55m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) マルチスライスCT装置, 永久磁石型オープンMRI装置			
研究室	4,686m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) リアルタイム定量PCR装置			
講義室	357m ²	鉄筋コンクリート	室数	2 室	収容定員	426 人
図書室	1,861m ²	鉄筋コンクリート	室数	21 室	蔵書数	13万冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成26年4月1日～平成27年3月31日	
紹介率	65.6%	逆紹介率	54.7%
算出根拠	A: 紹介患者の数	8,014 人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	8,011 人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	1,585 人	
	D: 初診の患者の数	14,642 人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	0人
CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	32人
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	4人
IL28Bの遺伝子診断によるインターフェロン治療効果の予測評価	6人
前眼部三次元画像解析	21人
(他の保険医療機関に対して検体の採取以外の業務を委託して実施する保険医療機関)急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変(MRD)量の測定	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
パクリタキセル静脈内投与(一週間に一回投与するものに限る。)及びカルボプラチン腹腔内投与(三週間に一回投与するものに限る。)の併用療法 上皮性卵巣がん、卵管がん又は原発性腹膜がん	1人
パクリタキセル腹腔内投与及び静脈内投与並びにS-1内服併用療法 腹膜播種又は進行性胃がん(腹水細胞診又は腹腔洗浄細胞診により遊離がん細胞を認めるものに限る。)	2人
オクトレオチド皮下注射療法 先天性高インスリン血症(生後二週以上十二月未満の患者に係るものであって、ジアゾキサイドの経口投与では、その治療に係る効果が認められないものに限る。)	0人
S-1内服投与、オキサリプラチン静脈内投与及びパクリタキセル腹腔内投与の併用療法 腹膜播種を伴う初発の胃がん	1人
術前のTS-1内服投与、パクリタキセル静脈内及び腹腔内投与並びに術後のパクリタキセル静脈内及び腹腔内投与の併用療法 根治切除が可能な漿膜浸潤を伴う胃がん(洗浄細胞診により、がん細胞の存在が認められないものに限る。)	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	血液がん薬物療法におけるkey drugの治療薬物モニタリングと遺伝子多型	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 血液悪性腫瘍患者においてそのkey drugとなる抗がん薬の血中薬物動態を測定し、TDMを行い、さらに関連する遺伝子多型の検索も加え、その治療効果・副作用との関連について検討を行う。			
医療技術名	¹⁸ F-FLT PET	取扱患者数	18人
当該医療技術の概要 非小細胞肺癌を対象に¹⁸F-FLT PETを用いて全身化学療法の有用性を評価している。			
医療技術名	癌腹膜転移に対する化学温熱腹膜灌流療法(CHPP)の開発研究	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 大腸癌、虫垂癌、卵巣癌などの腹膜転移、腹膜中皮腫などに対し、腹腔内を高温の抗癌剤を含む灌流液で温熱灌流する温熱化学療法である。			
医療技術名	胃癌腹膜播種治療におけるタキサン系抗癌剤の腹腔内投与法の確立	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 臨床研究として、胃癌腹膜播種及び腹腔細胞診陽性症例に対して腹腔ポートを用いたタキソール及びタキソテールの腹腔内投与を行っている。全身化学療法に加えて行うことで、治療成績の向上や安全性の確認、治療効果判定の確立を検討している。			
医療技術名	遺伝性乳癌卵巣癌症候群に対するBRCA1、BRCA2遺伝子検査	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 乳癌卵巣癌の家族癌が濃厚な乳癌卵巣癌患者に対して遺伝カウンセリングと、施術後希望者にBRCA1またはBRCA2遺伝子検査を行う。抗癌剤選択、予防的卵巣切除、血縁者の乳癌卵巣癌検診を行う。			
医療技術名	FES-PET検査による乳癌患者における内分泌治療効果予測に関する研究	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 ホルモン受容体陽性の転移再発乳癌に対してエストロゲンを用いたPET検査を施行し、内分泌治療効果を予想する。			
医療技術名	fMRIによる愛着障害へのオキシトシン治療効果判定システムの開発	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 愛着障害患児の顔表情認知・報酬系に関する脳内情報処理機構を、非侵襲的脳イメージング(機能的MRI)を用いて顔表情認知・報酬課題施行時の前頭前野機能系の障害の程度を神経賦活計測により検索する。さらに、オキシトシン点鼻薬又は偽薬の単回投与前後の脳画像解析を行う。			
医療技術名	ピタバスタチンを用いたアルツハイマー病への応用	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 認知症かつ高脂血症を合併する患者に対しピタバスタチンを投与し、認知機能低下の進行予防効果につき検討した。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾 患 名	取扱患者数	疾 患 名	取扱患者数
・ベーチェット病	21人	・膿疱性乾癬	5人
・多発性硬化症	30人	・広範脊柱管狭窄症	14人
・重症筋無力症	28人	・原発性胆汁性肝硬変	9人
・全身性エリテマトーデス	53人	・重症急性膵炎	0人
・スモン	0人	・特発性大腿骨頭壊死症	39人
・再生不良性貧血	18人	・混合性結合組織病	18人
・サルコイドーシス	41人	・原発性免疫不全症候群	2人
・筋萎縮性側索硬化症	11人	・特発性間質性肺炎	15人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	57人	・網膜色素変性症	19人
・特発性血小板減少性紫斑病	33人	・プリオン病	1人
・結節性動脈周囲炎	13人	・肺動脈性肺高血圧症	2人
・潰瘍性大腸炎	53人	・神経線維腫症	7人
・大動脈炎症候群	8人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	7人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0人
・天疱瘡	11人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	3人
・脊髄小脳変性症	21人	・ライソゾーム病	7人
・クローン病	25人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	2人	・脊髄性筋萎縮症	0人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	97人	・球脊髄性筋萎縮症	3人
・アミロイドーシス	6人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	5人
・後縦靱帯骨化症	78人	・肥大型心筋症	2人
・ハンチントン病	1人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	23人	・ミトコンドリア病	9人
・ウェゲナー肉芽腫症	0人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	1人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	11人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	3人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリーブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	14人	・黄色靱帯骨化症	27人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	2人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	29人

(注)「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 地域歯科診療支援病院歯科初診料	・ 退院調整加算
・ 歯科外来診療環境体制加算	・ 救急搬送患者地域連携紹介加算
・ 特定機能病院入院基本料 一般病棟(7対1)	・ 呼吸ケアチーム加算
・ 特定機能病院入院基本料 精神病棟(13対1)	・ 病棟薬剤業務実施加算
・ 臨床研修病院入院診療加算 医科(基幹型)	・ データ提出加算2 イ(200床以上)
・ 臨床研修病院入院診療加算 歯科(単独型)	・ 地域歯科診療支援病院入院加算
・ 救急医療管理加算	・ 特定集中治療室管理料3
・ 超急性期脳卒中加算	・ 総合周産期特定集中治療室管理料
・ 妊産婦緊急搬送入院加算	・ 新生児治療回復室入院医療管理料
・ 診療録管理体制加算2	・ 小児入院医療管理料3
・ 急性期看護補助体制加算(25対1)(看護補助者5割未満)	・
・ 看護補助加算2	・
・ 療養環境加算	・
・ 重症者等療養環境特別加算	・
・ 無菌治療室管理加算1	・
・ 無菌治療室管理加算2	・
・ 緩和ケア診療加算	・
・ 精神科身体合併症管理加算	・
・ がん診療連携拠点病院加算	・
・ 栄養サポートチーム加算	・
・ 医療安全対策加算1	・
・ 感染防止対策加算1 及び 感染防止対策地域連携加算	・
・ 患者サポート体制充実加算	・
・ 褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ ハイリスク妊娠管理加算	・
・ ハイリスク分娩管理加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 植込型除細動器移行期加算	・ 心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・ 高度難聴指導管理料	・ 植込型心電図検査
・ 糖尿病合併症管理料	・ 時間内歩行試験
・ がん性疼痛緩和指導管理料	・ 胎児心エコー法
・ がん患者指導管理料1	・ ヘッドアップティルト試験
・ がん患者指導管理料2	・ 皮下連続式グルコース測定
・ がん患者指導管理料3	・ 長期継続頭蓋内脳波検査
・ 外来緩和ケア管理料	・ 神経学的検査
・ 糖尿病透析予防指導管理料	・ 補聴器適合検査
・ 夜間休日救急搬送医学管理料	・ ロービジョン検査判断料
・ 外来リハビリテーション診療料	・ コンタクトレンズ検査料1
・ ニコチン依存症管理料	・ 小児食物アレルギー負荷検査
・ 地域連携診療計画管理料	・ 内服・点滴誘発試験
・ がん治療連携計画策定料	・ センチネルリンパ節生検1(併用法)
・ がん治療連携管理料	・ センチネルリンパ節生検2(単独法)
・ 肝炎インターフェロン治療計画料	・ 画像診断管理加算2
・ 薬剤管理指導料	・ ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・ 医療機器安全管理料1	・ CT撮影 及び MRI撮影
・ 医療機器安全管理料2	・ 冠動脈CT撮影加算
・ 医療機器安全管理料(歯科)	・ 大腸CT撮影加算
・ 持続血糖測定器加算	・ 心臓MRI撮影加算
・ 造血器腫瘍遺伝子検査	・ 抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・ HPV核酸検出	・ 外来化学療法加算1
・ HPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・ 無菌製剤処理料
・ 検体検査管理加算(Ⅳ)	・ 心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ) 及び 初期加算
・ 遺伝カウンセリング加算	・ 脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ) 及び 初期加算

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 運動器リハビリテーション料(Ⅰ) 及び 初期加算	・ 経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの) 1 高速回転式経皮経管アテレクトミーカテーテルによるもの
・ 呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ) 及び 初期加算	・ 経皮的冠動脈ステント留置術
・ がん患者リハビリテーション料	・ ペースメーカー移植術 及び ペースメーカー交換術
・ 歯科口腔リハビリテーション料2	・ 植込型心電図記録計移植術 及び 植込型心電図記録計摘出術
・ 抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・ 両心室ペースメーカー移植術 及び 両心室ペースメーカー交換術
・ 医療保護入院等診療料	・ 植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術 及び 経静脈電極抜去術(レーザーシースを用いるもの)
・ 処置の休日加算1、時間外加算1及び深夜加算1	・ 両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術 及び 両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・ 透析液水質確保加算1	・ 大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・ 一酸化窒素吸入療法	・ 経皮的大動脈遮断術
・ 歯科技工加算	・ ダメージコントロール手術
・ 悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	・ 体外衝撃波膀胱石破碎術
・ 組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合)	・ 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・ 骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・ 体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・ 腫瘍脊椎骨全摘術	・ 同種死体腎移植術
・ 脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。) 及び 脳刺激装置交換術	・ 生体腎移植術
・ 脊髄刺激装置植込術 及び 脊髄刺激装置交換術	・ 膀胱水压拡張術
・ 緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・ 腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
・ 網膜再建術	・ 医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術
・ 人工内耳植込術	・ 手術の休日加算1、時間外加算1及び深夜加算1
・ 内視鏡下鼻・副鼻腔手術Ⅴ型(拡大副鼻腔手術)	・ 輸血管理料Ⅱ
・ 上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)	・ 貯血式自己血輸血管理体制加算
・ 乳がんセンチネルリンパ節加算1(併用法)	・ 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・ 乳がんセンチネルリンパ節加算2(単独法)	・ 内視鏡手術用支援機器加算
・ ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・ 広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・ 経皮的冠動脈形成術	・ 麻酔管理料(Ⅰ)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

[illegible]

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・抗悪性腫瘍剤感受性検査(HDRA法又はCD-DST法)	・
・超音波骨折治療法	・
・内視鏡的大腸粘膜下層剥離術	・
・先天性難聴の遺伝子診断(他の医療機関に対して検体の採取以外の業務を委託するもの)	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	病理診断部門:週2回 臨床検査部門:週3回
剖 検 の 状 況	剖検症例数 37 例 / 剖検率 14.40%

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
SIRSを本体とする重症感染症に対する抗菌薬のサイトカイン産生抑制の意義	酒巻 一平	内科学(1)	1,200,000	日本学術振興会 科学研究費助成事業
肝臓の慢性炎症が誘導する発がん候補遺伝子におけるドライバー変異の同定	中本 安成	内科学(2)	4,500,000	日本学術振興会 科学研究費助成事業
マイクロキャピディアレ液体生検技術を用いた肝がん再発超早期診断法の開発	中本 安成	内科学(2)	1,100,000	日本学術振興会 科学研究費助成事業
タウ蛋白オリゴマーが誘導するアルツハイマー病の分子機序の解明 臨床への応用	濱野 忠則	内科学(2)	1,200,000	日本学術振興会 科学研究費助成事業
肝エネルギー代謝に関与する新規転写抑制因子の機能解析と代謝関連肝疾患治療への応用	根本 朋幸	内科学(2)	1,000,000	日本学術振興会 科学研究費助成事業
辺縁系脳炎型橋本脳症の臨床像と病態機序の解明	松永 晶子	内科学(2)	1,300,000	日本学術振興会 科学研究費助成事業
アンジオテンシンIV受容体可溶成分の高感度測定系構築と臨床的有用性の評価	此下 忠志	内科学(3)	1,500,000	日本学術振興会 科学研究費助成事業
“脂肪心筋”が不整脈を起こすメカニズムの研究	鈴木 仁弥	内分泌・代謝内科	1,500,000	日本学術振興会 科学研究費助成事業
間質性肺炎の治療効果早期予測における2時相18F-FDG PET画像の有用性	梅田 幸寛	呼吸器内科	900,000	日本学術振興会 科学研究費助成事業
糸球体腎炎に対するFSP1を中心とした新規治療戦略	岩野 正之	腎臓病態内科学	5,100,000	日本学術振興会 科学研究費助成事業
レドックス生体応答反応を利用した新規のベッドサイド迅速酸化ストレス診断法の開発	糟野 健司	腎臓病態内科学	1,700,000	日本学術振興会 科学研究費助成事業
睡眠時無呼吸症候群-糖尿病性腎症連関(ポドサイト障害と尿中microRNA解析)	高橋 直生	腎臓内科	1,400,000	日本学術振興会 科学研究費助成事業
食物アレルギーに対する制御性T細胞誘導を利用した経皮免疫療法の開発	大嶋 勇成	小児科学	1,500,000	日本学術振興会 科学研究費助成事業
医学的評価に基づく自閉症児のきょうだい支援システムの構築	川谷 正男	小児科	1,700,000	日本学術振興会 科学研究費助成事業
オートファジー機能修飾により食物アレルギーを抑制する	安富 素子	小児科学	1,900,000	日本学術振興会 科学研究費助成事業
胃粘膜保護剤ゲラニルゲラニルアセトンを用いた気管支肺異形成症の新規予防戦略	徳力 周子	小児科学	1,700,000	日本学術振興会 科学研究費助成事業
効果的な抗腫瘍免疫をもたらす自家造血幹細胞移植法の開発研究	鈴木 孝二	小児科	1,600,000	日本学術振興会 科学研究費助成事業
ステロイド抵抗性喘息における気道上皮細胞のオートファジーの重要性	村井 宏生	小児科	1,100,000	日本学術振興会 科学研究費助成事業
経皮感作による食物アレルギー発症機序の解明と経皮免疫療法への応用	河北 亜希子	小児科	1,200,000	日本学術振興会 科学研究費助成事業
線維細胞を指標とした気道リモデリング進展リスク評価法の確立	林 仁幸子	小児科	1,000,000	日本学術振興会 科学研究費助成事業
亜鉛欠乏および社会的隔離による情動変化に関する基礎的研究	小俣 直人	神経科精神科	1,200,000	日本学術振興会 科学研究費助成事業
創造性が高齢者の脳機能に及ぼす影響-脳波の非線形解析を用いた統合的研究-	上野 幹二	精神医学	600,000	日本学術振興会 科学研究費助成事業
体内オキシトシン濃度の簡易検査法としての唾液濃度測定の有効性の検討	松村 由紀子	精神医学	2,000,000	日本学術振興会 科学研究費助成事業
神経ネットワークに着目した電気けいれん療法的作用機序の解明-脳波の非線形解析-	岡崎 玲子	神経科精神科	2,600,000	日本学術振興会 科学研究費助成事業
大腸癌におけるPROK1/EGF-VEGF蛋白質発現と抗体療法の可能性の検討	五井 孝憲	外科学(1)	1,200,000	日本学術振興会 科学研究費助成事業
絹タンパク質sericinを用いた無血清培地によるラット長期脾島培養の検討	森川 充洋	消化器外科	1,600,000	日本学術振興会 科学研究費助成事業
ヒト胃癌細胞における癌幹細胞様細胞への形質転換とPAR1の関連	藤本 大裕	消化器外科	1,400,000	日本学術振興会 科学研究費助成事業

小計27

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ヒト骨化黄色靱帯由来培養細胞を用いた骨化伸展制御因子の特定	馬場 久敏	整形外科学	1,300,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
脊髄障害性疼痛の分子生物学的病態解析とニューロイメージングを用いた脊髄機能評価	内田 研造	整形外科学	800,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
脊髄損傷における骨髄間質細胞移植効率向上のための病態解明と克服に関する基礎的研究	中嶋 秀明	整形外科学	1,200,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
CD271陽性骨髄幹細胞を用いた変形性関節症に対する軟骨再生治療の試み	宮崎 剛	整形外科・脊椎外科	2,300,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
脊髄損傷後慢性疼痛モデルの脳脊髄におけるCCL21とマイクログリアの組織学的検討	本定 和也	整形外科・脊椎外科	1,500,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
心前負荷の指標としての左心室拡張終末期容量(Ved)のモニタの開発	重見 研司	麻酔・蘇生学	1,200,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
体温依存性重要臓器血流分布における麻酔薬の効果	高倉 康	麻酔・蘇生学	1,500,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
麻酔薬の細胞膜を介したカリウムチャネル制御機構の解明	松木 悠佳	麻酔・蘇生学	600,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
生体機能検査を用いた子宮肉腫の病態解明の試みと治療法の模索	吉田 好雄	産科婦人科学	500,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
細胞内ブランチナ濃度を制御するhCTR1とATP7Bに着眼した難治性卵巣癌治療戦略	黒川 哲司	産科婦人科学	1,200,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
英膜細胞／アンドロゲン系を制御する:ゴナドトロピン不応症の克服を目指して	折坂 誠	産科婦人科	1,300,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
超低出生体重児の消化管成熟に向けた治療戦略:肺サーファクタントを用いた動物実験	西島 浩二	産科婦人科学	1,400,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
in vivo 蛍光イメージングを利用したHPV感染細胞可視化の試み	品川 明子	産科婦人科	900,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
ジェノゲストを用いた抗癌剤からの卵巣機能保護の研究	津吉 秀昭	産科婦人科	1,000,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
主席卵胞選択メカニズムの解明をめざして:質の高い卵子の選択のために	服部 克成	産科婦人科学	800,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
慢性心理ストレスは脳由来CRFを介して膀胱知覚過敏・間質性膀胱炎を引き起こす?	横山 修	泌尿器科学	1,000,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
オートファジーの制御は前立腺癌治療のブレイクスルーとなりえるか	伊藤 秀明	泌尿器科	800,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
neuromodulation:神経可塑への作用は過活動膀胱の新治療となり得るか	松田 陽介	泌尿器科学	1,500,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
PETを用いた腎癌に対する分子標的薬の早期治療効果判定のための基礎的検討	多賀 峰克	泌尿器科	1,600,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
下部尿路機能障害治療薬による膀胱血流改善の新しい視点からの検証と低活動膀胱の抑制	横川 竜生	泌尿器科	1,300,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
メタボ時代の夜間頻尿対策:膀胱C線維遮断は夜間多尿を改善する?	岡田 昌裕	泌尿器科	1,600,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
サイトカインを標的とする強皮症の治療戦略	長谷川 稔	皮膚科学	1,200,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
皮膚創傷形成から治癒過程におけるデルモカインβの役割	飯野 志郎	皮膚科	1,000,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
胎仔期循環血液内の間葉系幹細胞を利用した遺伝性・難治性皮膚疾患の新規治療法の確立	知野 剛直	皮膚科学	1,400,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
Cu-ATSMを用いた血管内皮前駆細胞の生体内追跡とグリオーマ新生血管抑制療法	菊田 健一郎	脳脊髄神経外科学	1,000,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
クラゲコラーゲンを利用した人工硬膜の作成とその性能評価	小寺 俊昭	脳脊髄神経外科	1,000,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
虚血性脳血管障害における新たな画像診断技術62Cu-ATSM PETに関する検討	磯崎 誠	脳脊髄神経外科	900,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
18FfluoroacetatePETを用いたアストロサイト機能での脳疾患の解明	根石 拡行	脳脊髄神経外科	1,100,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
ミトコンドリア視神経軸索流をバイオマーカーにした新しい緑内障診断法の創出	稲谷 大	眼科学	3,400,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
再生医療を応用した新しい緑内障手術	稲谷 大	眼科学	1,000,000	⑨補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
水晶体における血管新生抑制因子の探索と血管新生緑内障の新しい病態概念の確立	高村 佳弘	眼科学	1,000,000	⑨補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
新規ライブイメージングを駆使した、緑内障進行を予測する軸索輸送パラメータの同定	瀧原 祐史	眼科	1,000,000	⑨補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
サイトカインをバイオマーカーにした新たな糖尿病黄斑浮腫評価法の創出と治療戦略	松村 健大	眼科学	900,000	⑨補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
生体イメージングを用いた外因性ストレスが網膜神経節細胞の軸索流に与える影響の解析	三宅 誠司	眼科学	1,100,000	⑨補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
アレルギー性鼻炎発症における肥満細胞脱顆粒の多面的研究	藤枝 重治	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	7,800,000	⑨補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
iPS細胞による嗅覚障害の再生医療への基礎研究	藤枝 重治	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	1,700,000	⑨補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
生体用共焦点レーザー顕微鏡によるヒト鼓索神経切断後の味蕾退縮・再生過程の解明	齋藤 武久	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	700,000	⑨補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
遺伝子多型関連分子と難治性上気道好酸球性病変局所の好塩基球に対する治療戦略	山田 武千代	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	3,700,000	⑨補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
G2checkpoint abrogationによる頭頸部癌抗癌剤耐性の克服	成田 憲彦	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,300,000	⑨補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
好酸球性副鼻腔炎の病態形成における肥満細胞の役割に関する研究	高林 哲司	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	1,500,000	⑨補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
ケモカインレセプターの頭頸部癌における役割の検討	岡本 昌之	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	800,000	⑨補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
アレルギー性鼻炎の感作から発症に関連する新規遺伝子の研究	意元 義政	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,800,000	⑨補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
iPS細胞、ES細胞から甲状腺組織への分化誘導	菅野 真史	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,400,000	⑨補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
頭頸部癌に対する化学放射線治療後の新しいPET検査による評価の検討	呉 明美	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	900,000	⑨補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
好酸球性副鼻腔炎患者の鼻茸におけるTRP受容体の発現とその機能解析	徳永 貴広	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,700,000	⑨補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
高齢者の異時性口腔癌制御を目的とした血管新生阻害剤局所注入療法の確立	佐野 和生	歯科口腔外科学	1,600,000	⑨補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
材料－上皮組織間の組織学的評価を行うための簡便なin vitro試験法の確立	古橋 一憲	歯科口腔外科	900,000	⑨補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
子宮・卵巣疾患における非造影灌流MR画像法(ASL法)の開発と臨床応用	小坂 信之	放射線医学	1,200,000	⑨補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
津波被災地をフィールドとした下肢静脈エコー所見と止血機能検査の研究	山村 修	地域医療推進講座	900,000	⑨補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
胃発癌を制御する食品のエピジェネティクス機構の解析	須藤 弘之	地域高度医療推進講座	1,500,000	⑨補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
脂質応答性転写因子の抗線維化作用の解析と新規治療薬の探索－低酸素性腎障害を中心に	木村 秀樹	検査部	1,200,000	⑨補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
冬眠の各種治療への応用(HP Complexに注目して)	安田 善一	集中治療部	1,000,000	⑨補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
Pathogenesis analysis of sciatica on lumbar disc herniation. Changes of nerve root evoked potentials and oxygen concentration induced by intraoperative SLR test	小林 茂	リハビリテーション部	400,000	⑨補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
ヒト後縦靭帯骨化症における伸展ストレスと遺伝子タンパク発現量変化に関する検討	杉田 大輔	リハビリテーション部	500,000	⑨補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
大脳一末梢神経Dual stimulationを用いたリハビリテーションの開発	久保田 雅史	リハビリテーション部	200,000	⑨補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
ADHD児の運動パターンの定量解析	成瀬 廣亮	リハビリテーション部	1,700,000	⑨補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
多様化を続ける紅斑熱群の輻輳した病態解析に基づく治療制御法の確立	岩崎 博道	感染制御部	800,000	⑨補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
術後遷延性疼痛の脳内メカニズムの解明	中井 國博	形成外科	1,700,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
脱分化軟骨細胞Lineage tracing法開発による軟骨細胞脱分化過程の解析	峯岸 芳樹	形成外科	1,000,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
発達障害発症基盤としての胎生期脂質代謝異常の研究	松崎 秀夫	子どものこころの発達研究センター	1,400,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
脳画像解析と遺伝子多型解析の融合による注意欠陥多動性障害(ADHD)の病態解明	友田 明美	子どものこころの発達研究センター	4,200,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
顔刺激fMRIによる愛着障害へのオキシトシン治療効果判定システム開発	友田 明美	子どものこころの発達研究センター	1,400,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
自閉症スペクトラムの顔認知に関わる神経基盤:fMRI横断研究	小坂 浩隆	子どものこころの診療部	500,000	補 委	公益財団法人明治 安田こころの健康財団
ロボットを用いたASD児の共同注視への介入効果についての予備的研究	熊崎 博一	子どものこころの診療部	500,000	補 委	公益財団法人発達 科学研究教育センター
対人不安症状に対する複数のヒト型ロボットを用いた集団療法	熊崎 博一	子どものこころの診療部	900,000	補 委	公益財団法人 マツ ダ財団
自閉症スペクトラム症の香料過敏についての調査	熊崎 博一	子どものこころの診療部	500,000	補 委	公益財団法人 コス メトロジー研究振興財団
遺伝子学的手法を用いたC.pneumoniaeとC.psittaciの鑑別法の開発とクラミジア肺炎における臨床応用	飛田 征男	検査部	1,000,000	補 委	公益財団法人 黒住 医学研究振興財団
子の社会性発達を支援する地域ケアシステムの中での縦断的視線計測	熊崎 博一	子どものこころの診療部	790,000	補 委	公益財団法人 ユニ バーサル財団
新規抗腫瘍性ヌクレオシドアナログ、ペンダムスチンの作用機序の解明と耐性の克服	山内 高弘	血液・腫瘍内科	600,000	補 委	公益財団法人 痛風 財団
糖尿病白内障のエビジェネティックな発現制御機構の解明と創薬	高村 佳弘	眼科学	2,000,000	補 委	参天製薬創業者記 念眼科医学研究基金
加速度計を用いた生活信号型見守りセンサーの開発とプライバシー保護を担保できる危険情報の取得に関する研究	山村 修	地域医療推進講座	1,635,640	補 委	(公財)在宅医療助 成勇美記念財団
切除不能進行・再発大腸癌に対する一次治療としてのFOLFOXまたはFOLFIRI+panitumumab併用療法の有効性・安全性に関する検討 ―第Ⅱ相試験―	山口 明夫	外科学(1)	787,500	補 委	(財)先端医療振興財 団
StageⅢ結腸癌治療切除例に対する術後補助化学療法としてのmFOLFOX6療法またはXELOX療法における5-FU系抗がん剤およびオキサリプラチンの至適投与期間に関するランダム化第Ⅲ相比較臨床試験	山口 明夫	外科学(1)	21,300	補 委	(財)がん集学的治療 研究財団
在宅医療と介護の為にアラームアドバイザー支援システムの研究開発	山村 修	地域医療推進講座	6,461,000	補 委	総務省北陸総合通 信局
入力型BMI電気刺激を用いた運動と感覚の再生法の研究開発	岸谷 融	神経内科	3,952,000	補 委	総務省情報通信国 際戦略局
25-4-7心房細動の予防ならびに重症化の予測的診療体系の確立	埴田 浩	循環器内科学	1,000,000	補 委	(独)国立循環器病 研究センター
低侵襲治療用医療機器に最適なチタン系高強度・高靱性素材の開発	菊田 健一郎	脳脊髄神経外科学	525,122	補 委	経済産業省
重症好酸球性副鼻腔炎に対する新しい治療戦略	藤枝 重治	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	29,900,000	補 委	厚生労働省
NSAIDs不耐症におけるブレイクスルーを旨とした病因・機序の解明、および、NSAIDs誤使用ゼロを旨とする具体的対策の実行に関する研究	藤枝 重治	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	1,500,000	補 委	(独)国立病院機構 相模原病院 臨床研 究センター
新規結核菌抗原とDNAアジュバントを用いた成人肺結核に対するブースターワクチンの開発	岩崎 博道	感染制御部	4,160,000	補 委	(独)科学技術振興 機構
高齢者多発性骨髄腫患者に対する至適な分子標的療法の確立と治療効果および有害事象を予測するバイオマーカーの探索的研究	岸 慎治	血液・腫瘍内科	1,500,000	補 委	(独)国立がん研究セ ンター

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
強皮症の病態解明および革新的医薬品開発の研究	長谷川 稔	皮膚科学	700,000	補 委	熊本大学
冠動脈ステント留置術後12ヶ月超を経た心房細動患者に対するワーファリン単独療法の妥当性を検証する多施設無作為化試験【OAC-ALONE Study: Optimizing Antithrombotic Care in patients with Atrial fibrillation and coronary stEnt study】	埴田 浩	循環器内科学	32,400	補 委	(一財)生産開発科学研究所
慢性冠動脈疾患患者におけるイコサペント酸エチルの二次予防効果の検討 [Randomized trial for Evaluation in Secondary Prevention Efficacy of Combination Therapy - Statin and Eicosapentaenoic Acid (RESPECT-EPA)]	森下 哲司	循環器内科	120,000	補 委	(一財)生産開発科学研究所

小計3
計111

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	山内 高弘	内科学(1)	Prognostic effect of peripheral blood cell counts in advanced diffuse large B-cell lymphoma treated with R-CHOP-like chemotherapy:A single institution analysis	Oncol Lett 9 2 851-856 2015
2	山内 高弘	内科学(1)	Gemtuzumab ozogamicin and olaparib exert synergistic cytotoxicity in CD33-positive HL-60 myeloid leukemia cells	Anticancer Res 34 10 5487-5494 2014
3	山内 高弘	内科学(1)	A nelarabine-resistant T-lymphoblastic leukemia CCRF-CEM variant cell line is cross-resistant to the purine nucleoside phosphorylase inhibitor forodesine	Anticancer Res 34 9 4885-4892 2014
4	山内 高弘	内科学(1)	Reduced drug incorporation into DNA and antiapoptosis as the crucial mechanisms of resistance in a novel nelarabine-resistant cell line	BMC Cancer 29 14 547 2014
5	山内 高弘	内科学(1)	Cytarabine-resistant leukemia cells are moderately sensitive to clofarabine in vitro	Anticancer Res 34 4 1657-1662 2014
6	吉田 明	内科学(1)	Gö6976, a FLT3 kinase inhibitor, exerts potent cytotoxic activity against acute leukemia via inhibition of survivin and MCL-1	Biochem Pharmacol 90 1 16-24 2014
7	細野 奈穂子	内科学(1)	Recurrent genetic defects on chromosome 7q in myeloid neoplasms	Leukemia 28 6 1348-1351 2014
8	田居 克規	内科学(1)	Significantly higher cytokine and chemokine levels in patients with Japanese spotted fever than in those with tsutsugamushi disease	J Clin Microbiol 52 6 1938-1946 2014
9	高井 美穂子	内科学(1)	Febuxostat for management of tumor lysis syndrome including its effects on levels of purine metabolites in patients with hematological malignancies – a single institution's, pharmacokinetic and pilot prospective study	Anticancer Res 34 12 7287-7296 2014
10	多崎 俊樹	内科学(1)	The response to induction therapy is crucial for the treatment outcomes of elderly patients with acute myeloid leukemia: single-institution experience	Anticancer Res 34 10 5631-5636 2014
11	高井 美穂子	内科学(1)	Controlling serum uric acid using febuxostat in cancer patients at risk of tumor lysis syndrome	Oncol Lett 8 4 1523-1527 2014

小計11

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
12	根本 朋幸	内科学(2)	Comparison of hepatic arterial infusion chemotherapy and sorafenib in elderly patients with advanced hepatocellular carcinoma: A case series	Mol Clin Oncol 2 6 1028-1034 2014
13	大藤 和也	内科学(2)	A peptide antigen derived from EGFR T790M is immunogenic in non-small cell lung cancer	Int J Oncol 46 2 497-504 2015
14	石塚 全	内科学(3)	Safety and efficacy of high-dose leukocytapheresis in patients with refractory asthma	Inflamm Res 63 9 789-796 2014
15	石塚 全	内科学(3)	The effects of concomitant GERD, dyspepsia, and rhinosinusitis on asthma symptoms and FeNO in asthmatic patients taking controller medications	J Asthma Allergy 7 - 131-139 2014
16	梅田 幸寛	内科学(3)	(18)F-FDG uptake predicts diagnostic yield of transbronchial biopsy in peripheral lung cancer	Lung Cancer 85 1 47-52 2014
17	市川 麻衣	内科学(3)	Genetic variant of the renin-angiotensin system and prevalence of type 2 diabetes mellitus: a modest but significant effect of aldosterone synthase	Acta Diabetol 51 4 595-599 2014
18	糟野 健司	腎臓病態内科学	Renal redox dysregulation in AKI : application for oxidative stress marker of AKI	Am J Physiol Renal Physiol 307 12 F1342-1351 2014
19	三上 大輔	腎臓内科	Telmisartan activates endogenous peroxisome proliferator-activated receptor-delta and may have anti-fibrotic effects in human mesangial cells	Hypertens Res 37 5 422-431 2014
20	宇随 弘泰	循環器内科学	Pitavastatin decreases serum LOX-1 ligand levels and MT1-MMP expression in CD14-positive mononuclear cells in hypercholesterolemic patients	Int J Cardiol 176 3 1230-1232 2014
21	荒川 健一郎	循環器内科学	Blue toe in a male with cholesterol embolisation syndrome	Clin Med 14 6 688-689 2014
22	五井 孝憲	外科学(1)	The anti-tumor effect is enhanced by simultaneously targeting VEGF and PROK1 in colorectal cancer	Oncotarget 6 8 6053-6061 2015
23	五井 孝憲	外科学(1)	Anti-prokineticin1 (PROK1) monoclonal antibody suppresses angiogenesis and tumor growth in colorectal cancer	Ann Surg Oncol 21 Suppl 4 S665-671 2014
24	加藤 成	外科学(1)	Cancer stem cell marker in circulating tumor cells: expression of CD44 variant exon 9 is strongly correlated to treatment refractoriness, recurrence and prognosis of human colorectal cancer	Anticancer Res 35 1 239-244 2015

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
25	横山 修	泌尿器科学	Efficacy of fesoterodine on nocturia and quality of sleep in Asian patients with overactive bladder	Urology 83 4 750-755 2014
26	伊藤 秀明	泌尿器科学	Metabolic syndrome and lower urinary tract symptoms	World J Clin Urol 3 3 330-335 2014
27	内田 研造	整形外科科学	Gene therapy strategies for the treatment of spinal cord injury	Ther Deliv 5 5 591-607 2014
28	内田 研造	整形外科科学	Prognostic value of changes in spinal cord signal intensity on magnetic resonance imaging in patients with cervical compressive myelopathy	Spine J 14 8 1601-1610 2014
29	高村 佳弘	眼科学	Large capsulorhexis with implantation of a 7.0 mm optic intraocular lens during cataract surgery in patients with diabetes mellitus	J Cataract Refract Surg 40 11 1850-1856 2014
30	高村 佳弘	眼科学	The effect of photocoagulation in ischemic areas to prevent recurrence of diabetic macular edema after intravitreal bevacizumab injection	Invest Ophthalmol Vis Sci 55 8 4741-4746 2014
31	三宅 誠司	眼科学	Phase II enzyme induction by a carotenoid, lutein, in a PC12D neuronal cell line	Biochem Biophys Res Commun 446 2 535-540 2014
32	横田 聡	眼科学	Limbus- versus fornix-based trabeculectomy for open-angle glaucoma eyes with prior ocular surgery: the Collaborative Bleb-Related Infection Incidence and Treatment Study	Sci Rep 5 9290 2015
33	有村 尚悟	眼科	Determinants of anterior chamber angle narrowing after mydriasis in the patients with cataract	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol 253 2 307-312 2015
34	齋藤 武久	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Degeneration process of fungiform taste buds after severing the human chorda tympani nerve--observation by confocal laser scanning microscopy	Otol Neurotol 36 3 539-544 2015
35	岡本 昌之	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	DBZ regulates cortical cell positioning and neurite development by sustaining the anterograde transport of Lis1 and DISC1 through control of Ndel1 dual-phosphorylation	J Neurosci 35 7 2942-2958 2015
36	徳永 貴広	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Factors associated with the development and remission of allergic diseases in an epidemiological survey of high school students in Japan	Am J Rhinol Allergy 29 2 94-99 2015
37	加藤 幸宣	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Nasal sensitization with ragweed pollen induces local-allergic-rhinitis-like symptoms in mice	PLoS ONE 9 8 e103540 2014

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
38	木村 幸弘	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Dectin-1-mediated signaling leads to characteristic gene expressions and cytokine secretion via spleen tyrosine kinase (Syk) in rat mast cells	J Biol Chem 289 45 31565-31575 2014
39	菅野 真史	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Sex-determining region Y-box 2 and GA-binding proteins regulate the transcription of liver receptor homolog-1 in early embryonic cells	Biochem Biophys Acta 1839 5 406-414 2014
40	小嶋 章弘	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Predictor of rehabilitation outcome for dysphagia	Auris Nasus Larynx 41 3 294-298 2014
41	大場 誠悟	歯科口腔外科	Aspiration pneumonia associated with a double fracture of the mandible	J Craniofac Surg 25 6 e569-571 2014
42	大場 誠悟	歯科口腔外科	Diagnostic role of magnetic resonance imaging in assessing orofacial pain and paresthesia	J Craniofac Surg 25 5 1748-1751 2014
43	大場 誠悟	歯科口腔外科	Wisdom Tooth Extraction without an Interruption of Warfarin Therapy in a Patient with Protein S Deficiency	Jpn J Oral Diag/Oral Med 27 2 197-201 2014
44	吉村 仁志	歯科口腔外科	Piezosurgery-assisted transposition of the inferior alveolar nerve in a patient with osteoradionecrosis: A case report with a neurosensory assessment and a review of the literature	Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology 26 4 472-476 2014
45	松田 慎平	歯科口腔外科	Assessment of migrated foreign bodies in the maxillae by x-ray fluorescence spectrometry	J Craniofac Surg 25 3 e233-235 2014
46	米谷 博	小児科	Marked elevation of interleukin-6 in mild encephalopathy with a reversible splenic lesion (MERS) associated with acute focal bacterial nephritis caused by Enterococcus faecalis	Brain Dev 36 6 551-553 2014
47	林 仁幸子	小児科学	Biotin and carnitine deficiency due to hypoallergenic formula nutrition in infants with milk allergy	Pediatr Int 56 2 286-288 2014
48	林 仁幸子	小児科学	IL-33 enhanced the proliferation and constitutive production of IL-13 and IL-5 by fibrocytes	Biomed Res Int 2014 738625 2014
49	津吉 秀昭	産科婦人科	Protective effect of dienogest on chemotherapy-induced reduced fertility in female rats	Steroids 93 1-7 2015
50	小俣 直人	神経科精神科	Neuronal plasticity in depressive or manic states--new assessment of our hypothesis: mania is an extension of depression from the perspective of neuronal plasticity	Med Hypotheses 83 6 845-846 2014

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
51	上野 幹二	精神医学	Neurophysiological basis of creativity in healthy elderly people: a multiscale entropy approach	Clin Neurophysiol 126 3 524-531 2015
52	岡崎 玲子	神経科精神科	Changes in EEG complexity with electroconvulsive therapy in a patient with autism spectrum disorders: a multiscale entropy approach	Front Hum Neurosci 9 106 2015
53	石飛 信	精神医学	Quetiapine responsive catatonia in an autistic patient with comorbid bipolar disorder and idiopathic basal ganglia calcification	Brain Dev 36 9 823-825 2014
54	有島 英孝	脳脊髄神経外科	Cerebral amyloid angiopathy causing large contralateral hemorrhage during surgery for lobar hemorrhage: a case report	J Stroke Cerebrovasc Dis 24 3 e83-85 2015
55	有島 英孝	脳脊髄神経外科	A large intramedullary neurofibroma in the thoracic spinal cord: case report	Neurol Med Chir(Tokyo) 54 9 752-756 2014
56	小寺 俊昭	脳脊髄神経外科	Utility of postmortem imaging system for anatomical education in skull base surgery	Neurosurg Rev 38 1 165-170 2015
57	上田 雅史	麻酔科蘇生科	Cannabinoid receptor type 1 antagonist, AM251, attenuates mechanical allodynia and thermal hyperalgesia after burn injury	Anesthesiology 121 6 1311-1319 2014
58	松木 悠佳	麻酔・蘇生学	Effect of removal of subglottic blood during endoscopic sinus surgery	Anaesth Pain & Intensive Care 18 2 167-171 2014
59	松木 悠佳	麻酔・蘇生学	Formation of a fibrin net on the polypropylene membrane oxygenator used for percutaneous cardiopulmonary support in a patient with acute myocarditis	J Clin Anesth 26 4 338-339 2014
60	都司 和伸	放射線科	Serial changes of (18)F-FDG PET/CT findings in ischiopubic synchondrosis: comparison with contrast-enhanced MRI	Hell J Nucl Med 18 1 66-67 2015
61	後藤 匡啓	救急部	Multiple failed intubation attempts are associated with decreased success rates on the first rescue intubation in the emergency department: a retrospective analysis of multicentre observational data	Scand J Trauma Resusc Emerg Med 23 5 2015
62	後藤 匡啓	救急部	A comparison of the force applied on oral structures during intubation attempts between the Pentax-AWS airwayscope and the Macintosh laryngoscope: a high-fidelity simulator-based study	BMJ Open 4 10 e006416 2014
63	川野 貴久	救急部	Execution of diagnostic testing has a stronger effect on emergency department crowding than other common factors: a cross-sectional study	PLoS One 9 10 e108447 2014

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
64	秋野 裕信	泌尿器科学	Factors influencing patient satisfaction with antimuscarinic treatment of overactive bladder syndrome: Results of a real-life clinical study	Int J Urol 21 4 389-394 2014
65	木村 秀樹	検査部	Telmisartan, a possible PPAR- δ agonist, reduces TNF- α -stimulated VEGF-C production by inhibiting the p38MAPK/HSP27 pathway in human proximal renal tubular cells	Biochem Biophys Res Commun 454 2 320-327 2014
66	根来 寛	薬剤部	Variations in the Blood Phenytoin Levels during Long-Term Combined Treatment with S-1 and Phenytoin	Case Rep Oncol 7 3 656-661 2014
67	松尾 英明	リハビリテーション部	Early transcutaneous electrical nerve stimulation reduces hyperalgesia and decreases activation of spinal glial cells in mice with neuropathic pain	Pain 155 9 1888-1901 2014
68	渚 孝介	手術部	Thin-film electroencephalographic electrodes using multi-walled carbon nanotubes are effective for neurosurgery	Biomed Eng Online 13 166 2014
69	岡本 悠子	こころの発達開拓部門	Attenuation of the contingency detection effect in the extrastriate body area in autism spectrum disorder	Neurosci Res 87 66-76 2014
70	岩田 圭子	こころの形成発達研究部門	N-ethylmaleimide-sensitive factor interacts with the serotonin transporter and modulates its trafficking: implications for pathophysiology in autism	Mol Autism 5 33 2014
71	熊崎 博一	Age2企画	Risperidone-associated urinary incontinence in patients with autistic disorder with mental retardation	J Clin Psychopharmacol 34 5 624-626 2014
72	浅野 みずき	こころの発達開拓部門	Ramelteon monotherapy for insomnia and impulsive behavior in high-functioning autistic disorder	J Clin Psychopharmacol 34 3 402-403 2014
73	藤澤 隆史	Age2企画	Visual attention for social information and salivary oxytocin levels in preschool children with autism spectrum disorders: an eye-tracking study	Front Neurosci 8 295 2014
74	八ツ賀 千穂	Age2企画	No association between Catechol-O-methyltransferase (COMT) genotype and attention deficit hyperactivity disorder (ADHD) in Japanese children	Brain Dev 36 7 620-625 2014
75	岡沢 秀彦	分子イメージング展開領域	Brain imaging for oxidative stress and mitochondrial dysfunction in neurodegenerative diseases	Q J Nucl Med Mol Imaging 58 4 387-397 2014
76	牧野 顕	分子プローブ開発応用領域	Solid tumor-targeting theranostic polymer nanoparticle in nuclear medicinal fields	Scientific World Journal 2014 Article ID 424513 2014

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
77	牧野 颯	分子プローブ開発応用領域	Morphology control of molecular assemblies prepared from bio-based amphiphilic polymers with a helical hydrophobic unit and application as nanocarriers for contrast agents and/or drug delivery	Polymer Journal 46 783-791 2014
78	稲井 邦博	分子病理学	Feasibility of liver weight estimation by postmortem computed tomography images: an autopsy study	Pathol Int 64 7 315-324 2014
79	稲井 邦博	分子病理学	Risk factor analysis for bone marrow histiocytic hyperplasia with hemophagocytosis: an autopsy study	Virchows Arch 465 1 109-118 2014

小計3
計79

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 1. 倫理審査申請から承認、研究の実施までの流れ (図) 2. 倫理審査申請書類の作成について 3. 倫理審査の申請から委員会審査、承認まで 4. 研究計画の実施状況報告及び終了 (中止) 報告について 5. 重篤な有害事象及び不具合への対応 6. 倫理審査委員会に関する情報 7. 倫理審査申請に関する問い合わせ先	
③ 倫理審査委員会の開催状況	(委員会開催) 年 10 回 (委員長及び委員 2 名による迅速審査) 年 49 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 1. 趣旨 2. 委員会の設置 3. 組織 4. 申告書の提出等	

5. 審査の方法 6. 審査結果の報告 7. 指導等 8. 事務 9. 雑則	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	(委員会開催) 年 1 2 回 (委員全員による書面附議) 年 1 4 回 (委員全員によるメール附議) 年 1 回 (委員長審査) 年 4 3 回

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 3 回
・ 研修の主な内容 1. 平成 26 年 7 月 9 日 (水) 17:30～18:30 「臨床研究に求められる倫理の基本と研究の実際」 福井大学医学部看護学科 基礎看護学講座 上野 栄一 教授 2. 平成 26 年 12 月 4 日 (木) 17:30～18:30 「『研究デザイン学』のススメ」 京都大学大学院医学研究科 医療疫学分野 福原 俊一 教授 3. 平成 27 年 3 月 24 日 (火)、平成 27 年 3 月 26 日 (木) 17:30～18:30 「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針についてー 改訂のポイント及び本学での手続きの説明 ー」 福井大学医学部附属病院 薬剤部・治験先進医療センター 渡邊 享平主任 ほか	

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

各診療科においては、専門医研修プログラムを有し、修練目標・研修方略等が掲げられた詳細なカリキュラムに沿って研修し、それぞれの専門医取得を目指す。

2 研修の実績

研修医の人数	133人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
上田 孝典	血液・腫瘍内科	理事	39年	
岩崎 博道	感染症・膠原病内科	教授	27年	
中本 安成	消化器内科	教授	24年	
濱野 忠則	神経内科	准教授	23年	
石塚 全	呼吸器内科	教授	23年	
此下 忠志	内分泌・代謝内科	准教授	27年	
岩野 正之	腎臓内科	教授	26年	
茅田 浩	循環器内科	教授	28年	
山口 明夫	消化器外科	教授	38年	
前田 浩幸	乳腺・内分泌外科	講師	24年	
腰地 孝昭	心臓血管外科	教授	29年	
佐々木 正人	呼吸器外科	准教授	25年	
横山 修	泌尿器科	教授	31年	
長谷川 稔	皮膚科	教授	22年	
中井 國博	形成外科	准教授	18年	
馬場 久敏	整形外科・脊椎外科	教授	36年	
小林 茂	リハビリテーション科	准教授	30年	
稲谷 大	眼科	教授	18年	
藤枝 重治	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	教授	27年	
佐野 和生	歯科口腔外科	教授	35年	
大嶋 勇成	小児科	教授	28年	
吉田 好雄	産科婦人科	教授	25年	
和田 有司	神経科精神科	教授	36年	
菊田健一郎	脳脊髄神経外科	教授	22年	
重見 研司	麻酔科蘇生科	教授	29年	
木村 浩彦	放射線科	教授	26年	
林 寛之	救急科	教授	27年	
今村 好章	病理診断科	准教授	27年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 最新の医療と薬物療法について、疾患と薬剤選択、新薬の特徴ならびに注意点、特に副作用の早期発見、重篤化防止のための初期症状、検査値の見方について各種領域の専門医を交えてディスカッションする ・研修の期間・実施回数 2～3時間、6回 ・研修の参加人数 30～60名
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2). 現状
管理責任者氏名	病院長 和田 有司
管理担当者氏名	総務管理課長 柘植 智司 経営企画課長 安岡 浩憲 医療サービス課長 吉野 孝博 医療情報部長 大嶋 勇成 医療安全管理部長 秋野 裕信 感染制御部長 岩崎 博道 薬剤部長（事務取扱） 岩崎 博道 放射線部長 木村 浩彦 ME機器管理部長 片山 寛次

		保 管 場 所	管 理 方 法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		病院部医療サービス課（病歴室）、薬剤部、放射線部、医療情報部 各診療科	外来診療録は、1 患者 1 ファイル、入院診療録は、1 患者 1 入退院 1 ファイルで病歴室において中央管理している。電子診療録として、1 患者 1 ファイルを医療情報部において管理している。 なお、診療録の持ち出しは禁止としている。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務部人事労務課	
	高度の医療の提供の実績	病院部経営企画課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	病院部総務管理課	
	高度の医療の研修の実績	病院部総務管理課	
	閲覧実績	病院部総務管理課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	病院部医療サービス課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	病院部医療サービス課及び薬剤部	
	第規一則号第に一掲条のる十体一制第の一確項保各の号状及び況び第九条の二十第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
		専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	
		医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	

			保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則 第一条の十一 第一項各号及び第九条の二十三 第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	感染制御部	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部	
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	ME 機器管理部	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME 機器管理部	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME 機器管理部	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME 機器管理部	

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状	
閲覧責任者氏名	病院長 和田 有司		
閲覧担当者氏名	総務管理課長 柘植 智司		
閲覧の求めに応じる場所	管理棟会議室		
閲覧の手続の概要			
諸記録の閲覧の申請を担当係に行う。 申請内容を確認の後、閲覧資料の準備を行う。 所定の場所（主に管理棟の会議室）において閲覧。			

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0	件
閲覧者別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	① 有 ・ 無
- 指針の主な内容： (1) 医療に係る安全管理の基本的考え方 (2) 医療に係る安全管理の体制 (3) 職員研修に関する基本方針 (4) 医療に係る安全確保の改善方策に関する基本方針 (5) 医療上の事故等発生時の対応に関する基本方針 (6) 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針（患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針を含む。） (7) 相談への対応に関する基本方針 (8) その他医療安全の推進のために必要な基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 12 回
- 活動の主な内容： (1) 医療安全管理の指針に関すること。 (2) 医療安全管理の対策及び改善に関すること。 (3) 医療安全管理に係る指導及び助言に関すること。 (4) その他医療安全管理の重要事項に関すること。	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 15 回
- 研修の主な内容： (1) 全職員を対象に、平成26年5月30日に外部講師による「日本麻酔科学会の薬物依存に対する取組とその課題」についての研修を行った。 (2) 全職員を対象に、平成26年6月30日に院内講師による「繰り返される医薬品関連のオカレンスから学ぼう！」についての研修を行った。 (3) 全職員を対象に、平成26年7月4日に院内講師による「褥瘡診療計画書の書き方&トランスファーボードの使い方」についての研修を行った。 (4) 全職員を対象に、平成26年7月16日に外部講師による「医療安全につながるホスピタリティ発想とその実践」についての研修を行った。 (5) 全職員を対象に、平成26年9月11日に院内講師による「医療安全から見た職場のメンタルヘルス」についての研修を行った。 (6) 全職員を対象に、平成26年10月20日に院内講師による「静脈栄養と経腸栄養の安全管理」についての研修を行った。 (7) 全職員を対象に、平成26年11月26日に院内講師による「スムーズな地域医療連携のために皆さんができること」についての研修を行った。 (8) 全職員を対象に、平成26年12月10日に院内講師による「RST活動とそこからみえてきたもの」についての研修を行った。 (9) 全職員を対象に、平成27年1月22日に院内講師による「MRIの安全な運用について」についての研修を行った。 (10) 全職員を対象に、平成27年2月16日に院内講師による「医療安全の対策について」についての研修を行った。 (11) 全職員を対象に、平成27年3月25日に院内講師による「医療安全の世界を体験して想うこと」についての研修を行った。 他 4 件	

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備 (☒ 有 ・ 無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： (1) オカレンスレポートは医療安全管理部に報告され、GRMと部員が日々モニタリングを行い、現場確認を行っている。また、内容により各部署における対策の確認が必要な場合は、医療安全管理部長より文書で提出を依頼し、医療安全管理部で内容を確認し検証を行っている。 (2) 医療事故防止強化月間を定め、重要事項を決めて医療事故防止に取り組んでいる。 (3) 医療安全管理部員が毎月2回実施部署を決め、院内パトロールを実施している。 (4) 各部門の管理担当者が参加するカンファレンスを週1回程度開催し、医療安全対策に係る取組の評価等を行っている。 (5) GRMが日々定期的に院内を巡回し、各部門における医療安全対策の実施状況を把握・分析し、医療安全確保のために必要な業務改善のための具体的な対策を推進している。	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	☒ (5 名) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	☒ (5 名) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	☒ ・ 無
・ 所属職員： 専任 (5) 名 兼任 (17) 名 ・ 活動の主な内容： (1) 医療安全管理委員会への情報提供及び改善等の提案に関すること。 (2) オカレンスの収集、調査、分析及び防止策に関すること。 (3) オカレンスレポートで報告された医療上の事故について、影響レベルの判定に関すること。 (4) 医療上の事故防止に係る提言及び指導に関すること。 (5) 医療安全管理に関する教育、研修及び啓発に関すること。 (6) 事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。 (7) 患者や家族への説明など事故発生時の対応状況について確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。 (8) 各部門のリスクマネージャーとの連絡調整及びリスクマネージャー会議の運営に関すること。 (9) 医療安全対策に係る取組の評価等を行うカンファレンスを週1回程度開催する。 (10) その他医療の安全管理に関すること。	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	☒ ・ 無

(様式第 6)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
- 指針の主な内容： (1) 院内感染対策に関する基本的な考え方 (2) 院内感染対策に関する管理体制 (3) 職員研修に関する基本方針 (4) 感染症発生状況の報告に関する基本方針 (5) 院内感染発生時の対応に関する基本方針 (6) 指針の閲覧に関する基本方針 (7) その他院内感染対策の推進のために必要な基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
- 活動の主な内容： (1) 感染予防対策の確立に関すること。 (2) 感染予防の実施、監視及び指導に関すること。 (3) 感染源の調査に関すること。 (4) 感染予防に係る諸調査及び情報の収集に関すること。 (5) その他感染対策についての重要事項に関すること。	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 15 回
- 研修の主な内容： (1) 全職員を対象に、平成26年5月21日に院内講師による「MRSAはどこからくるのか」についての研修を行った。 (2) 全職員を対象に、平成26年6月30日に院内講師による「周術期の感染対策」についての研修を行った。 (3) 全職員を対象に、平成26年7月23日に院内講師による「新病棟移転と感染対策」についての研修を行った。 (4) 全職員を対象に、平成26年8月6日に外部講師による「国内予防接種の現状と課題」についての研修を行った。 (5) 全職員を対象に、平成26年8月22日に外部講師による「感染対策を見直す」についての研修を行った。 (6) 全職員を対象に、平成26年10月17日に院内講師による「耐性菌を克服する」についての研修を行った。 (7) 全職員を対象に、平成26年11月26日に院内講師による「季節性の感染対策」についての研修を行った。 (8) 全職員を対象に、平成27年1月22日に院内講師による「光学診療部における感染対策」についての研修を行った。 (9) 全職員を対象に、平成27年2月16日に院内講師による「感染対策活動報告」についての研修を行った。 (10) 全職員を対象に、平成27年3月25日に院内講師による「インフルエンザ対策」についての研修を行った。 他 5件	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
- 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無) - その他の改善のための方策の主な内容： (1) 感染症発生状況は感染制御部に報告され、感染制御部のメンバーのうち医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師で構成されたICTが日々モニタリングを行っている。また、1週間に1回程度定期的に院内を巡回し、現場確認を行っている。また、内容により各部署における対策の確認が必要な場合は、感染制御部長より文書で改善を依頼し、各部署とのカンファレンスや現場のラウンド等で確認している。 (2) 感染制御部員が定期的に実施場所を決め、ラウンドを実施している。 (3) 各部署のリンクナースはICNと連携し、各看護単位の感染対策上の問題点を抽出し、改善策を実施している。 (4) ICNが日々細菌室状況をもとに当該部署を巡回し、感染対策の確認と改善指導を行っている。	

(様式第 6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	☒ 有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 3回
研修の主な内容：麻薬の管理について 医薬品関連のオカレンス事例について 簡易懸濁法について	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
- 手順書の作成 (☒有・無) - 業務の主な内容：従業者に対する医薬品の安全使用のための研修 手順書に基づく業務実施状況の確認 医薬品の安全使用に必要な情報収集他、医薬品の安全確保を目的とした 方策の実施	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
- 医薬品に係る情報の収集の整備 (☒有・無) - その他の改善のための方策の主な内容： PMD Aメディナビの活用 医療安全管理部のカンファレンスや院内パトロールに参加し、医薬品の安全使用に関する 実地確認を実施 副作用シグナル自動検知システムを活用した副作用の早期発見や予防への取り組み 院内の定数配置薬見直し	

(様式第 6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	☒ 有 ☐ 無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 9 6 回
- 研修の主な内容： - 新規購入の医療機器に関し、納品時に使用説明を含めた研修を行った。 - 人工呼吸器や保育器等の高度な医療機器に関して、不定期に研修会を実施した。 - 新規採用職員を対象とした医療機器の研修を行った。	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
- 計画の策定 (☒ 有 ☐ 無) - 保守点検の主な内容： - 重要医療機器に関し、年間保守計画を立てて定期的に実施している。 - また、必要に応じて定期間隔で点検を実施している医療機器もある。	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
- 医療機器に係る情報の収集の整備 (☒ 有 ☐ 無) - その他の改善のための方策の主な内容： (財) 日本医療機能評価機構及び(独) 医薬品医療機器総合機構から情報を収集し、必要に応じて医療安全管理部と医療機器安全管理委員会により、活用及び改善対策をとっている。	

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 I S O 9001 : 2008 平成24年7月30日	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 1. 病院公式ホームページの公開 2. 情報誌「フロンティア」の発行・地域への配布 3. 「病院のご案内」の発行・地域医療機関への配布 4. 日刊県民福井に「元気で医こう」と題し、医療に関する記事を毎週（日）掲載。 5. 地域医療機関連携コーディネーターと地域医療連携部看護師が、福井県内及び石川県加賀地区の医療機関を訪問し、本院の情報提供を行っている。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 ・中高年外来（産婦人科、総合診療部との連携）を実施 ・がん診療推進センター（各診療科）カンサーボードの実施 ・歯科の周術期における口腔機能の管理（歯科口腔外科と各診療科） ・北米型（ER型）救急体制により救急初期対応にあたり、必要に応じて各診療科に専門的な治療を依頼する体制を構築している（救急部と各診療科）	